

第 15 回

熊本県議会

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成26年3月10日

開会中

場所 第3委員会室

第15回 熊本県議会高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成26年3月10日(月曜日)

午前10時0分開議

午前11時40分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 九州新幹線を活用した地域振興に関する件
- 4 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 5 その他

出席委員(13人)

委員長 小早川 宗 弘
副委員長 高木 健次
委員 山本 秀久
委員 小杉 直
委員 平野 みどり
委員 堤 泰宏
委員 荒木 章博
委員 鎌田 聰
委員 早田 順一
委員 浦田 祐三子
委員 高野 洋介
委員 東 充美
委員 橋口 海平

欠席委員(1人)

委員 城下 広作

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

企画振興部

部長 錦織 功政

熊本県理事

兼交通政策・情報局長 小林 豊

地域振興課長 吉田 誠

交通政策課長 中川 誠

商工観光労働部

首席審議員

兼観光課長 渡辺 純一

くまもとブランド

推進課長 成尾 雅貴

土木部

部長 船原 幸信

道路整備課長 手島 健司

首席審議員

兼道路保全課長 増田 厚

都市計画課長 平尾 昭人

審議員兼

鉄道高架推進室長 松永 清文

警察本部

交通部長 木庭 強

交通規制課長 安武 秀則

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 春日 潤一

政務調査課主幹 桑原 博史

午前10時0分開議

○小早川宗弘委員長 ただいまから第15回高速交通及び新幹線活用対策特別委員会を開催します。

なお、本委員会に3名の傍聴の申し込みが あっておりまので、これを認めることといたします。

それでは、錦織企画振興部長から、執行部を代表して、着席のまま概要説明をお願いしたいと思います。

○荒木章博委員 その前にちょっと資料を、九州新幹線における予算、国県市の分担、それと在来線の高架事業に伴う予算の資料を、よかつたらこの期間中に配付していただければと思います。

○小早川宗弘委員長 この期間中というのは……。

○荒木章博委員 いや違うです。期間中というか、九州新幹線に対する県の負担金です。

○小早川宗弘委員長 負担金、今その資料わかりますか。後日補足という形でもよろしいですか。

○荒木章博委員 配付していただければ、どのくらいの県が予算を出しておるのか、国がどのくらい出しておるのか。それは後からでいいです。

○小早川宗弘委員長 それは、後からまとめて委員の皆さん方に配っていただきたいと思います。

それでは、錦織企画振興部長、概要説明をお願いします。

○錦織企画振興部長 委員会開会に当たりまして、執行部を代表して、本委員会の付託案件の概要について御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等のネットワークの整備につきましては、本年度は予算の重点化が図られ、それぞれの路線においてこれまで着実に整備が進められてきたところでございます。

次に、航空路線の利用促進につきましては、国内線全体の本年1月までの利用実績は、昨年度を上回る水準となっております。

国際線につきましては、ソウル線において、本年1月までの利用実績は、昨年度を上回る水準となっております。

台湾線につきましても、昨年の高雄から熊本への連続チャーター便は大変好評でありました。定期便実現に向け、今度は熊本から高

雄への送客需要を示すため、2月と3月にチャーター便を企画いたしました。2月の便は満席であり、3月には知事のトップセールスを予定しております。引き続き、阿蘇くまもと空港の路線振興及び拠点性向上に取り組んでまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港へのアクセス改善や公共交通機関の利用促進などを進めながら、引き続き、交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

第3に、九州新幹線を活用した地域振興に関する件でございます。

九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光振興等についてでございますが、くまもとプロモーションの推進に関しましては、今年度の締めくくりとして、JR九州とも連携し、「くまモン」の誕生日である3月12日から16日までの間、熊本市中心市街地等で「くまモン誕生祭」を実施し、県外からの誘客を意識した熊本の情報発信に努めてまいります。

また、観光キャンペーンにつきましては、現在、JR西日本とのタイアップによる「リメンバー九州キャンペーン」や、JR九州とのタイアップによる「どっちゃん行く？熊本」キャンペーン、熊本観光の強みである温泉をテーマとした「くまもと・ふろモーション」を展開しており、熊本観光の魅力を引き続き発信してまいります。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしましたが、詳しくは各課長から説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

○小早川宗弘委員長 それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明につきましては簡潔に、着席のままお願いしたいと思います。

それでは、執行部から説明をお願いいたします。

○手島道路整備課長 道路整備課でございます。

お手元の資料に基づきまして、今回は、前回からの変更点、アンダーラインの箇所を中心説明させていただきます。

担当しておりますI、高速交通体系に関する件について御説明を申し上げます。

1ページをお願いいたします。

今回、最下段の平成26年2月15日現在の供用延長について、日付と供用延長の修正を行っております。前回から31キロメートル伸びております。

4ページをお願いいたします。

九州縦貫自動車道の現状について、宇城氷川スマートインターチェンジの開通日が、平成26年3月29日と公表されました。

また、人吉球磨スマートインターチェンジにつきまして、これまで実施してきた利便増進事業が今年度末で終了することから、現在、国においては新たな制度の創設が検討されているところであります。その新制度を待って連結許可申請を行う予定と聞いております。

5ページをお願いします。

九州横断自動車道延岡線、通称九州中央自動車道の現状のところでございますが、嘉島ジャンクションから小池高山インター間の開通日が、平成26年度3月22日と公表されました。

11ページをお願いいたします。

平成25年度の要望活動等のところを時点修正しております。現在、九州中央自動車道蘇陽一高千穂間、中九州横断道路熊本市一大津町間、及び有明海沿岸道路II期・大牟田市一長洲町間が、国により事業化に向けた計画段階評価に着手されております。

このことを受けまして、11ページから14ページになりますが、この3カ所について2月

14日に、知事が国に対し計画段階評価の早期完了を求める要望を行っており、早期事業化に向け銳意活動しているところでござります。

最後に、別添資料①をお願いいたします。

今回、高規格幹線道路等の整備に関連して、熊本県道路公社が管理する松島有料道路の通行料金について報告いたします。

県が出資します熊本県道路公社は、今回、平成26年4月1日からの消費税の引き上げに伴う料金改定を見送ることといたしましたので、検討内容も含めて報告します。

道路公社は、通行料金に消費税の引き上げを適正に転嫁するため、料金改定の許可権者である国と相談しつつ検討を行ってきました。

国は、消費税率引き上げに伴う料金改定の許可においては、現行料金に消費税相当額を加算し、円単位を四捨五入し、10円単位で端数処理した料金にすることと、さらに増収が105分の108以内におさまることを確認することとしております。増収の確認には、平均料金の改定率により行われます。

数式を記載していますが、105分の108から1を引いた2.86%以内の改定率におさまることが必要であり、2.86%を超えると俗に言う便乗値上げに当たります。

次に、右側の「消費税引上げにかかる検討」をごらんください。

松島道路について具体的な検討内容です。

表-1をごらんください。

A欄は、現行の通行料金を示しております、普通車から大型II種の4車種ごとに設定されております。

B欄は、平成24年度の車種ごとの実績から求めた構成比を示しております。

次に、C欄ですが、A欄とB欄から平均料金を算定します。現行の通行料金の平均料金は、②の190.5円になります。

続きまして、表-2をごらんください。

B欄に示す赤文字は、表－1のA欄に示す現行料金に105分の108を乗じた後、円単位を四捨五入し、10円単位で端数処理した料金になります。

次に、E欄ですが、D欄とB欄から平均料金を算定したもので、その結果は③に示すとおり197.9円となります。

赤枠の部分をごらんください。②と③から平均料金の改定率を算定すると3.89%となり、2.86%を超えることから、道路公社は料金改定を見送ることとしました。

今回、料金改定を見送ったことによる税の負担については、公社の経営にほとんど影響はありません。また、県からの新たな支出は必要ございません。

なお、道路公社は、将来消費税率がさらに引き上げられた際には、今回改定を見送った税率分も含めて検討することとしております。

以上、報告を終わります。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

引き続き、資料の16ページをお願いいたします。

航空路線の利用促進についてでございます。

まず、国内線の状況でございます。

1月までの利用実績は、対前年同期比4.3%増の245万9,000人となっております。

個別の動きでございますが、特に東京線につきまして順調に推移しております。対前年同期比5.5%増となっております。

ただ、東京線につきましては動きがございます。1日3便運航しておりますスカイマークが、来月4月1日から運休となる予定でございます。東京線現在21便が18便となる予定でございます。

17ページをお願いいたします。

下の欄、参考－3の一番右端をごらんにな

られてください。4月1日現在でございます。ここで、おわびして訂正をさせていただきます。

路線数は6でございますが、その下の便数、現在39と記載しているところが、ただいま御説明いたしましたスカイマークの3便減によりまして36便となります。おわびして訂正させていただきます。

18ページをおめくりください。

路線ごとの利用状況でございます。

表の一番左端が1月末現在までの路線ごとの数字でございます。旅客数と利用率でございます。東京線64.9%、大阪線63.7%、沖縄線63.2%、トータル63.8%となっております。

この表の一番右側をごらんになられてください。東京線、冒頭説明しましたように、5.5%の増となっております。また、小牧線が大変好調でございまして、144.1%でございます。大阪線は、伊丹は数字はようございますが、神戸線の運休で昨年より数字が減っておりますので、対前年比は下がっております。沖縄線も109.9%と好調でございます。トータル104.3%となっております。

19ページをごらんになられてください。

国際線の現状でございます。

ソウル線につきましては、乗り継ぎ便（仁川経由）を利用しましたネットワークについての広報PRをいたしております。仁川経由でバリ、アンコールワット、セブ島など各地に旅行できる点をPRしているところでございます。

20ページをごらんになられてください。

台湾線でございます。冒頭、部長の説明にもございましたように、チャーター便の取り組みを行っております。2月21日からのチャーターは満席でございまして、熊本からの送客をアピールすることができたと思っております。国際チャーター便、1月末現在で、昨年度を大きく上回る86便となっております。

1枚おめくりください。

22ページの上段、11月から1月までのソウル線の状況でございます。上のほうから利用実績、対前年比、利用率、一番下が140人換算とした数字でございます。11月、12月、1月を加えた4月から1月までのトータルが、一番右端の計のところにございます。利用者数2万5,724人は、対前年比2割増の数字でございます。利用率も59.9%で、140人乗り換算にしますと71.8%となっております。

その下の欄がチャーター便の状況でございます。一番左側が4月から1月までの数字でございます。トータル便数、先ほど86便とお話ししましたが、台湾便がうち74便とそのほとんどを占めております。

一番右側の欄が増減でございますが、便数にして37便、利用者数にして2,335人の増加となっております。

23ページをごらんになられてください。

今後の取り組みでございます。台湾線につきましては、3月21日からもう一便アウトバウンドチャーターを予定しております、このチャーター便にあわせ中華航空のトップセールスを実施する予定でございます。

24ページをお願いいたします。

航空物流でございます。

この表につきましても、同じように11月から1月までの新たな数字を加えております。この表の一番下の数字が対前年月別の比較でございます。12月だけは97.8%と対前年とほぼ同じ数字でございましたが、残りの月は対前年1割近い減の数字でございます。一番右の合計欄、対前年90.9%になっております。

このページの最下段に、今後の取り組みに1つ追加しております。航空会社と物流事業者が連携した航空貨物便のネットワークにつきまして、県産品等の物流の利用促進を図っていくように頑張ってまいります。

少し飛んでください。30ページをお願いいたします。

30ページ、阿蘇くまもと空港の今後の取り組みでございます。

空港の整備に関しましてでございます。国際線のターミナルビルにつきましては、老朽化対策や改修などにつきまして、国や空港ビルディング等と協議を進めている中でございますが、トイレの改修は先行して実施ができます。今月末までに整備がされる予定となっております。

また、大空港構想につきましては、九州を支える広域防災拠点化を進めるということで、空港周辺の県有地の中に、駐機場の整備に取り組んでおります。既に、設計や各種調査に取り組んでおるところでございますが、平成26年度につきましては、この整備費につきまして予算要求をお願いしておるところでございます。

34ページをお願いいたします。

都市圏交通に関する件に移ります。

34ページ、空港アクセスの中の空港ライナーでございます。1月までの利用者数が、平成23年10月からのスタートから延べ12万2,910人となっております。今年度の4月から1月までの平均で、1日の利用者数が165人となっております。1日の最高利用者数の、ことしの1月5日に324人という記録を更新しております。

37ページをお願いいたします。

都市圏交通の中の公共交通機関の利用促進でございます。

乗り継ぎ円滑化に関しましてICカードでございます。熊本市電につきましては、既に報道されましたように、3月の28日の金曜日から、全国相互利用カード「でんでんニモカ」が導入される予定でございます。また、県内のバスにつきましても、1年先になりますが、平成27年の3月から、地域カードがまず導入される予定でございます。

引き続き、全国相互利用カードも利用できるシステムを、いわゆる片利用システムにつ

きましても、導入に向けた検討を進めておりまして、平成28年の3月の導入を目指しているところでございます。

交通政策課、以上でございます。

○平尾都市計画課長 都市計画課でございます。

恐れ入りますが、資料をちょっとお戻りいただきまして、31ページをお願いいたします。

熊本都市圏交通に関する件の1、熊本都市圏交通の現状にかかる(2)自動車交通及び渋滞の状況でございますが、熊本都市圏における交通手段は、自動車交通を利用する割合が依然として高く、平成24年度に実施しましたパーソントリップ調査の結果、自動車の分担率は約6割となっております。

37ページをお願いいたします。

(3)パークアンドライドの利用状況です。熊本都市圏10カ所におけるパークアンドライドの稼働状況につきましては、本年1月末時点で、駐車可能台数547台に対し契約台数は377台、稼働率は69%となっております。

38ページをお願いいたします。

1)利用促進に向けた取り組み状況ですが、②周知・広報としまして、県政広報ラジオ番組での広報を、今年度はこれまでに5回放送しております、今後1回の放送を予定しております。

事業者への利用促進の働きかけとしまして、昨年度実施しましたアンケートから、パークアンドライドの認知度が低いことが判明しましたので、事業者に社内報等への情報の掲載、ポスターの掲示等をお願いしているところです。

また、現在運用中の駐車場事業者へは、個々の駐車場ごとに問題点の解消に向けての対応策の提案を行っているところです。

これらの働きかけに加え、稼働率が低い駐車場を中心とする一定範囲の住民への新たな

広報活動について、検討を進めております。

39ページをお願いいたします。

2)パークアンドライド実施箇所の拡大ですが、熊本市周辺の市町村におきまして、パークアンドライド駐車場への転換の可能性がある駅・バス停周辺の月決め駐車場、及び駐車場を有する商業施設の立地状況の調査を行った結果、JR豊肥本線沿線の可能性が高いと判明したことから、実施箇所拡大の検討を進めることいたしました。

今後の取り組みです。

(3)になりますが、利用促進に向けた取り組みとして、引き続き周知・広報を行うとともに、各事業所、従業員への働きかけや交通機関の運行本数の増等について、事業所、交通事業者との協議・連携を進めてまいります。

また、地元市町村と連携し、稼働率が低い駐車場を中心とした、一定範囲の住民を対象とした広報にあわせてアンケートを実施することや、実施箇所の拡大についても、JR豊肥本線における具体策を検討してまいります。

都市計画課は以上でございます。

○成尾くまもとブランド推進課長 くまもとブランド推進課でございます。

お手元の資料47ページをお願いいたします。

2番、九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光振興等、この中で(1)熊本プロモーションの推進及び観光キャンペーン等の展開でございます。

当課関係といたしまして、次の48ページから53ページまでございますけれども、3点御報告申し上げます。

まず、51ページをお願いいたします。

中ほど下の丸、県内プロモーションでございます。

先ほど錦織企画振興部長から説明がござい

ましたが、くまモン誕生祭2014の開催を行います。これはあさって3月12日から16日・日曜日までの5日間でございます。

昨年7月に、テトリアくまもとビルにオープンいたしました「くまモンスクエア」がございますが、こちらを初めといたします市内中心市街地を活用いたしまして、「くまモン」の誕生日であります3月12日からの5日間、「くまモン」をフックにいたしました誕生祭を開催したいと思っております。

今回は、熊本市を初め中心市街地の商店街、それから九州新幹線全線開業3周年を迎えますJR九州などとも連携をいたしまして、熊本市中心部への県内外からの誘客を図り、市街地の活性化に寄与することとしているところでございます。既に、パレアホールで開催されます交流会につきましては、北は北海道から南は沖縄、さらに台湾からも参加したいというふうなお申し出があつてあるところでございます。

次に、ページめくっていただきまして、52ページをお願いいたします。

2つ目の丸、くまモンキャラクターの使用でございます。

昨年1年間の「くまモン」イラストの利用許諾商品売上高の調査結果が出ました。これにつきましては、恐れ入りますが、別添資料②で御説明をさせてください。

平成25年くまモン利用許諾商品年間売上高調査についてでございます。

1ページめくっていただきまして、中ほどの表になりますが、平成25年につきましては、449億円を超えたというふうな調査結果が出ました。前年比で大体1.53倍というふうな数字でございます。

裏面になりますけれども、有効回答率が約65.1%ということになって、昨年が約55%ですので、回答率のほうも若干上がっているところでございます。

回答がありました売上高県内外の構成とい

うことを見ますと、グッズ関係につきましては、昨年に比べて県外の比率が高まっており大体50%になっておりますが、食品関係につきましては、県内が85%近くというふうなことで、県内の事業者の県産品の販路拡大に貢献しているかというふうに考えているところでございます。

次に、委員会資料のほうにお戻りください。53ページでございます。

中ほどの丸でございますが、物産観光等情報提供施設「くまモンスクエア」でございますけれども、2月10日に来館者が20万人を達成したところでございます。引き続き、本県の観光物産情報の発信に寄与し、観光客の売り込みに貢献してまいりたいというふうに考えているところでございます。

くまもとブランド推進課は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○渡辺観光課長 観光課でございます。

観光キャンペーン等の展開につきまして、御説明させていただきます。

資料57ページをお願いいたします。

新幹線開業効果の継続拡大を図るために、現在、JR西日本と連携いたしまして「リメンバーア九州キャンペーン」、あるいはJR九州と連携した「どっちゃん行く？熊本キャンペーン」を展開しておりますが、このキャンペーンのさらなる周知を図るため、博多駅前でPRイベントを開催しております。2月1日～2日には、博多で行われましたイベントで、2日間で3万6,000人もの来場者がございました。

59ページ下の⑥でございますが、熊本観光の強みでございます食の活用策として、昨年度から地元のタウン誌と連携いたしまして、郷土料理やB級グルメの発掘プロジェクトを進めております。先日、読者や店舗での反響等を勘案し、天草のシーフードカレー等6種類の新ご当地グルメを選定いたしました。

今後、食で本県に観光客を誘致できるよう、パンフレットの配布やイベントへの出展、新聞・雑誌等を使った広報PRに努めてまいります。

61ページをお願いいたします。

61ページ上段の下線部でございますけど、平成26年3月で新幹線全線開業3周年を迎えます。そこで、JR九州と連携し、新幹線各駅でくまもと春祭りと称した開業記念イベントを開催いたします。書いてございます3月15～16日に行われます熊本駅での記念イベントにつきましては、くまモン誕生祭との連携のもと実施いたします。

飛びまして、最後の65ページをお願いいたします。

最後に、最近の観光動向についてでございます。

本県が実施いたしました宿泊動向調査によりますと、平成25年10月から12月の本県の延べ宿泊者数は、全体で前年同期比101.5%になりました。国内の宿泊者数は、前年同期比98.8%でございます。

全国豊かな海づくり大会などの大型イベントがございましたけども、東日本観光への回帰が見られることから、横ばい傾向にございます。

海外からの宿泊客数につきましては、前年同期比118.2%となりました。東アジアを中心といたしまして、東日本大震災の落ち込みから順調に回復いたしまして、増加傾向が続いているります。

以上でございます。

○小早川宗弘委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

○松永鉄道高架推進室長 先ほど荒木委員からお話をございました資料でございますが、今からお配りしてもよろしいでしょうか。

○小早川宗弘委員長 では、お願ひします。
(資料配付)

○小早川宗弘委員長 それでは、松永室長、簡単にこれを説明してから、後から質疑に入りたいと思います。

○荒木章博委員 いいですよ、説明は。

○小早川宗弘委員長 では、いいですか。

○荒木章博委員 はい。

○小早川宗弘委員長 それでは、質疑に入りたいと思いますけれども、委員の皆さん方から何か質問はありませんか。

○鎌田聰委員 濟みません。「くまモン」の売上高の調査では1.53倍ということで、449億円ということで驚いておりますけども、この中で回答をいただいたのが65%ということになりますから、全部に回答もらえばもう少し上がるのかどうかちょっとわかりませんが、逆に言うと、あの35%ぐらいの事業者は何で回答しないのかと思ってですね。

これを見ますと、結構やっぱり許諾の仕事とか含めてかなり労力使われて、月600件ぐらいの申請を許諾されているわけであって、これはそういったことを少し条件としながら、きちんと状況がどうなのかというのを回答していただくことを条件として、許諾もやっていったほうがいいんじゃないかと思いますけど、なぜ回答できないのか、その理由を教えていただきたいと思います。

○成尾くまもとブランド推進課長 おっしゃるように、まず先に、今年度以降の売り上げにつきましては、今委員から御指摘がございましたように、私ども利用許諾の条件といたしまして、義務づけていくこうというふうなことを考えてはいるところでございます。

それで、これまで残りの35%についてなぜ回答が得られていないかというふうなことでございますけれども、先方といたしまして、まず、今年度の売り上げがほとんど把握できていないというふうな状況が一つにはあるようでございます。私ども、利用許諾に際しましては2年間というふうな期限を切っておりまして、最初の1年間は非常に伸びているけれども、あの1年間につきましては、自分たちのほうでも出荷以降の売り上げについて承知できていないというようなところがあるようでございます。

同じように、農林水産物につきましても、いわゆる出荷組合というふうなところが出ていて、結果として承知できていないというふうな事例も若干見受けられました。

そういうふうなことがございましたので、今改めてお話ししますけれども、委員から御指摘がありましたように、来年度以降につきましては、利用許諾の条件として報告を義務づけるというふうなことで、現在検討を進めているところでございます。

以上です。

○鎌田聰委員 そういうことで、ぜひお願ひをしたいと思います。せっかく「くまモン」の許諾で大変な作業です。これは私は本音を言えば、少しお金取っても、許諾の手数料ぐらいはいただいてもいいんじゃないかとは思いますけれども、今無料でやられておりまから、そのかわりやっぱりきちんと、どれだけの効果があらわれているのか、そういうた許諾作業も税金でやっているわけでありますから、その分がどれだけ効果として上がっていいるのかというのを、きちんと県民にお知らせしていくことも大事だというふうに思いますので、ぜひその点は義務づけのほうの徹底をお願いしたいと思います。

以上です。

○浦田祐三子委員 「くまモン」絡みでよろしいですか。済みません、今いろいろお話がありましたけれども、経済波及効果が1,200億円超えたということで、熊本県にとっても「くまモン」は本当に財産であるなというふうに思っておるんですけども、ただ今お話がありましたけれども、いろいろグッズとかを見て回るんですけども、これだけ全国版になってきている「くまモン」なんですかけども、キャラクターとしてきちんと何というんですか、統一した商品というか、「くまモン」に似ているけどちょっと違うかないうのも中にもありますので、できればそういった申請をされていらっしゃる方に、大変努力をしていただいているのかもしれませんけれども、そういう見直しをすることはお考えでしょうか。

○成尾くまもとブランド推進課長 「くまモン」の利用許諾の申請につきましては、いわゆる皆さんのが御存じの大手のメーカーさんもございます。こういったところはデザイン力も大変優れていますので、商品化に際しましても今まで心配しておりません。

ただ、一方で、いわゆる個人事業者、手づくりベースというものがありますて、ビーズ商品ですとか、編み物とか、いろいろな商品の利用許諾というのがあります。そういう商品になりますと、おっしゃるように、なかなか「くまモン」に似ていないというものも多数見受けられるところでございます。

私どもも、そういう商品につきましては、もっと「くまモン」に似せてほしいというふうなやりとりをしておりますけれども、これだけ「くまモン」というのが幅広く多くの皆様に愛されているということもありますし、最終的には消費者の皆さんのが選択というところもありますので、本当にひどいものにつきましては、私どもも「済みません、これは……」と申し上げておりますけれども、個人の

皆さんがあつてつくれる商品につきましては、少しは私どもも寛容な形で許諾をしていっているというのが現状でございます。

おつしやるよう、今後につきまして、私どもこれは、来年度におきましては外部に利用許諾というは委託していこうということもございますので、もう少し線引きというものはしっかりとしていきたいなというふうな考え方ではいるところでございます。

以上です。

○浦田祐三子委員 頑張っている事務所のこともよくわかるんですけれども、できればきっちり見直しを——見直しというか、していただければなというふうに思います。

○成尾くまもとブランド推進課長 委員の今のお言葉を受けとめまして、私どもももう少し精査していくように努力してまいりたいと思います。

以上です。

○小早川宗弘委員長 よろしいですか。

○小杉直委員 よかですか。28ページ、小林局長にお尋ねですが、真ん中の付近に「さらに、空港機能等強化を図るため、阿蘇くまもと空港が広域防災拠点として対応するための調査・検討を平成24年度に実施。」となっていますが、広域防災拠点は25年度にたしか地域調査ばしたような記憶がありますが、その意味と防災拠点との関連性はどういうことかということと、大熊本構想の推進がどの程度まで進んどるかという2点について。

○中川交通政策課長 今、2点お尋ねがございまして、まず1点目の、広域防災拠点の工事の件でございます。25年度の6月補正で調査費をお認めいただいて、現在調査設計に取

り組んでおりますが、調査を進める中で、國のほうから追加でいろんなことを調べてくれというリクエストがありまして、現在実施設計のほうは26年度に繰り越しをさせていただいておりますので、現在調査につきましてはまだ実施設計の途中でございます。

ただ、それと並行しまして、26年度の当初予算で総額5億3,000万円の駐機場の整備、県営、いわゆる県営エプロンという形でございますが、大型の輸送機C130が4機程度とめられるような広さを確保しようということで、これは当初予算に計上させていただいております。

まず、第1点目は以上でございます。

○小林理事（交通政策・情報局長） 大空港構想の全体につきまして、少し項目を御説明させていただきたいと思います。

これまで大空港構想、知事から指示を受けまして、空港と空港周辺のエリアは、かなり広大な範囲を一応ターゲットとしまして、さまざまな資源の掘り起こしと磨き上げということを目的に進めてまいりました。

一つの大きな柱としましては、アジアとつながるということで、国際線の拡充を図ることであります。ソウル線につきましても今アシアナ航空と協力関係を結んで、かなりの送客の数は伸びている。そして、台湾路線については、御存じのとおりチャーター便もかなり多くなりまして、定期便がだんだん視野に入ってきており、中国路線につきましても、今このような国際情勢でありますが、水面下ではさまざまな協議を行っているという状況でございます。これが一つの柱であります。

もう一つが、空港とつながる手段をしっかりと確保するということで、空港ライナーの運行、鉄道のアクセスの確立という目的で進めておりますけれども、こちらも順調に利用者を伸ばしておりますし、現在もう片方の益城

インターポのバス停、これはさまざまな高速バスが行き来をしているところであります、リムジンバスと高速バスとの接点の部分ですね、ここでの乗りかえをどう円滑にするか、これによって阿蘇くまもと空港のお客さんの利用の範囲をどう広げるか、これも今研究中であります。

さらに、空港周辺の財産を活用するという観点では、パイロットのふるさとづくり事業ということで、崇城大学と協定を結びまして、パイロット養成に着手し始めた崇城大学をサポートできるだけして、その知名度を上げるとともに、崇城大学は御自身で努力をされまして、現在阿蘇くまもと空港のキャンパスで、一番最初何もできない段階から、事業用操縦士の免許を取る段階まで一貫教育ができる、日本で唯一の私立大学になりました。それもありまして、大変学生さんも今回たくさん集まられたということでありまして、今後熊本がパイロットの一つの養成拠点になっていくというふうに考えております。

さらに、空港周辺の財産としまして、もう一つは、実は阿蘇も含めまして、熊本は大変なバイクのツーリングのメッカというぐらいの多くの方がいらっしゃっておりまして、阿蘇のほうでも実はライダーの人たちの受け入れ施設をつくっておるんですけども、私どもも空港を拠点として、関東または大阪のお客さんを、空港を拠点にバイクで動いていただこうということで、ホンダと協力して、バイクは陸路運ばれてくる、お客様は空路やつてくる、それを結びつけてバイクのツーリングをもっと活発にしようと、こういった取り組みもしております。

さらに、空港本体でいいますと、空港のスマートエアポート化と申しまして、空港にいてどのような情報でも得られる環境をつくるということで、一つは、空港アクセスのためのデジタルサイネージを今はつけております。もう一つは、無料無線Wi-Fiを水銀

条約の会議までに設定いたしまして、全館で無料の無線LANが使える環境にしたところでございます。

さらにたくさんございますけれども、冒頭委員のほうから御指摘ありました広域防災拠点でありますが、この阿蘇くまもと空港が九州全域に貢献できる空港になろうということで、阿蘇くまもと空港における大きな防災用の航空機を受け入れられる環境を整え、そして総合運動公園でありますとか、グランメッセでありますとか、周辺の施設の防災対応と連動して、一旦大規模な災害があった場合には、熊本は当然のことながら、周辺の九州全域をカバーできるような防災体制を整えようと、これも大空港構想の一環として行っているところでございます。

個々についてはまだまとめて御報告しておりませんが、時期を見て詳細に御報告させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○小杉直委員 よかですか。中川さんに済まんばってんが、ああたが説明した広域防災拠点としての今後の推移については把握しとるわけですが、ここに「阿蘇くまもと空港が広域防災拠点として対応するための調査・検討を平成24年度に実施。」したということは、どういうつながりがあつとかないいうことが1つ。

小林さんのほうに、「日本一広く美しい空港」を目指すという考え方でやっていきよつと思いますけれども、今大体説明受けて概念的にはわかりましたが、周辺の交通アクセスを含めて、この「日本一の広く美しい空港」を目指すというとは、どういうところに力点を置いとつとかなということを質問します。

○中川交通政策課長 24年度の調査……、失礼しました。24年度には、熊本県全体として、いざ災害が起こったときに点と点を結ぶ

航空の拠点、利便性というのを最大限に生かして、どういう県内で受け入れ態勢ができるかということで調査をいたしておりまして、阿蘇くまもと空港それから天草空港も災害の受け入れ空港として使えないかということで、いろんな被害想定を前提としまして、どれだけ災害物資を送るためのスペースが必要かと。

そのような24年に調査をいたしておりまして、その調査を受けまして、ただいま阿蘇くまもと空港の大空港構想の中では、阿蘇くまもと空港の防災拠点としての活用策のみ説明させていただきましたが、24年度の調査を受けましては、並行しまして天草空港の防災拠点としての課題等の整理もいたしておりまして、それにつきましては26年度予算で、天草空港の防災拠点としての整備につきまして、機能整備、エプロンの舗装強化等については、予算要求させていただいているところでございます。

以上でございます。

○小杉直委員 今んとでよかですか。広域防災拠点の構想というと、25年度に構想を練って25年の年末に発表になったし、今の議会でも議論が行われておるですたいな。ここば見ると、24年度に阿蘇くまもと空港が云々て書いてあるけん、もう既に24年度には広域防災拠点としての考え方があつてこれをやつたわけだらうかな。

○中川交通政策課長 空港といいますのは、先ほどの繰り返しになりますけど、広いエリアから、遠いところから救援物資等、道路の寸断等があった際に受け入れるような、施設としての可能性が高いところなんですから、24年度のこの調査の時点において、空港は広域的な防災拠点になり得るんだという前提で、その可能性どこまでやれるんだというのを、布田川日奈久断層等の地震の際の想定

等も念頭に入れながら、24年度の時点では調査をいたしております。

以上でございます。

○小杉直委員 くどかごたるばってんが、おたくが説明した、今ちょっと延んどるばってん、26年度に5億数千万かけて広域防災拠点を整備するでしょう。それに対応するというよりも、それと全く別個に、阿蘇くまもと空港が広域防災拠点として調査・検討をしたということかね、別個に。

○中川交通政策課長 はい。24年度の調査をもとに調査をして、どれだけの物資の輸送、人の輸送、あるいは緊急患者の輸送等の想定をしたものを受けまして、今年度の26年度の実際のハード整備の予算要求をさせていただいているところでございますので、その一連の流れの中での今回の予算要求となっております。

以上でございます。

○小林理事（交通政策・情報局長） 「日本一広く美しい」という概念でありますが、もともとの大空港構想の発端というものが、この鉄道アクセスをどうつくるかというところに一番の根源がございます。そのときに、肥後大津駅からの鉄道アクセスをつくるのに300億円かかると。そうではなくて、肥後大津駅をそもそも空港の中に取り込むという発想でアクセスを考えたらどうだらうかというのが、知事のもともとの考え方でございました。

そのときに、思い描いていくと、肥後大津駅も入れた大きな空港の範囲を考えていくと、さまざまな財産、資源があるということを発見できたということでございまして、これをしっかりと磨き上げることによって九州の拠点空港になるだらうというのが、この大空港構想の一番最初の原点であるんですけれど

も、その後検討を進める中で、肥後大津駅もそうですし、グランメッセもそうですし、総合運動公園もそうですし、さまざまな機能が有機的に働き得るということがわかつてきたところであります。

これは日本一広いという概念になるんですけれども、美しいというところにつきましては、もともと全国から航空写真家が阿蘇くまもと空港に集まりまして、さまざまな写真コンテストが開かれるというぐらいに有名なところなんですけれども、さらに風景の磨き上げをすべきではないかと。

一つの例としましては、第2空港線沿い、または北側の空港線沿いに、民間の駐車場の看板が乱立している、これを整理できないかという話。または、第2空港線沿い非常にやぶが多かったんですけども、これを民間企業と協力してきれいに整備できないか。今、大分伐採が進んできれいな風景になってきております。

さらには、周辺の民間の農家の方々からの申し出もありまして、大きなお花畑をつくるとか、さらには空港の面のところにシバザクラを植えて、5月から6月になりますと大きな紫の帯ができております、こうしたことでもって風景の磨き上げをしていくというのが、美しいという部分への対応かなというふうに考えております。

○小杉直委員 その3つの要素の中の1つの先端技術産業の集積とか、九州を支える空港とか、いろいろ3つの中の2つがあるわけですが、小林局長がいつまでおらるるかわからぬもんすけん、今の段階で改めて聞いたわけですが、しっかり今後とも頑張ってください。

○荒木章博委員 台湾便とか韓国便、東南アジア、アジアに向けた韓国交流ということで、いろんな施策が幾つか書いてありますけ

ど、そういった中で、先般北海道にインドネシアか東南アジアか、雪を見たことがない、それで北海道のかなり上のほうまで、かまくらをみんなが、地域の人たちが掘ってあつたりして、観光客を誘致しようということで取り組んでいるんです。

だから、そういう何というか、今ライダーとかオルレとか、いろんなものを取り込んで、天草あたりはライダーあたり、オルレあたりで一生懸命努力をされたりしているようですけど、そういったところのちょっとした奇妙なアイデアというか、それをどういうふうにエージェントあたりとつかんでいくかということが必要だと思うんです。そういったあたりで、観光課はどういうふうに考えて今後取り組んでいかれるのか。

○渡辺観光課長 荒木委員から御指摘ございましたように、外国人観光客に絞ってみると、1月から9月までの外国人観光客が、観光庁の調べでは32万人ということで、10、11、12月を合わせれば40万人を超える勢いです。これは5年ぐらい前に記録した39万8,000人を超える、過去最高になる可能性が非常に高い状況でございます。その中で、6割が韓国、2割が台湾、そのほかあと1割という外国人観光客の割合でございます。

まず、最初に、外国人観光客の方々、東南アジア含めて、東アジアも含めて、最初に訪れるところは東京・大阪・京都、これはゴールデンルートといわれております。その次に、今おっしゃったように、雪を見に北海道に行くと、その次にどこに行くかというところで、それ以外のところで今競争をしているところでございます。

既に御指摘にございましたように、今天草ではオルレもございますし、オルレは韓国人の観光客の方が特に好まれるウォーキングですね、韓国版ウォーキングです、そういったもの、あるいは地域資源をいろいろ生かした

取り組みについて支援をしながら、それが外国人観光客の方に受け入れられるかどうかというのも、外国人観光エージェント、外国人観光客を送っていただく旅行エージェントの方々にもお示しをしながら、例えばイルカウォッチングとか、そういったものもお示ししながら、観光コースの中に熊本をより多く取り入れていただくような形で、今取り組みを進めておるところでございます。

○荒木章博委員 渡辺さん一生懸命やられておるから、これ以上言う必要はないかと思うんだけども、私はそういう改まるアイデアですたいね、だから冬場の時期熊本に観光客が少ない、そういった中で、少ない北海道を雪を使ってまた開発をしていくと。そういういろんな従来どおりの考え方からちょっと脱皮して——今は従来どおりの考え方でやって成功をしていないとは言いませんけれども、ある程度の観光客が来ております。

先般も朝日新聞に大きく、九州の外国人観光客の問題が取り上げてありましたけど、そういった中で、これはブランド推進課長にもちょっとお尋ねしたいと思うんですけども、「くまモン」が先般、山形県、加藤清正の縁で終焉の地に「くまモン」が行ったということで、私に山形から新聞が送ってきました。テレビから録画したDVDも送ってきましたけれども、非常に熊本と山形の観光というのが、一つの大名を通じて濃いつつながりがあるんだというのが初めてわかったということと、また向こうも何かJRのキャンペーンを打っていくということで、山形県が本年度ですか、ディスティネーションキャンペーンを打ち出す、そういった時期に熊本県もやっぱり「くまモン」を使って乗つかかっていくというのは、非常に秘策はあるというふうに思います。

また、全国での「くまモン」の展開あたりも、今ここで説明もあっていいるようですけれ

ども、海外に向けた今後の積極的な対応、特にアジアにおける台湾や韓国は認知度が割と少ない。しかし、その中にテレビ局やら、いろんな両方のお互いのテレビ局とのコンサートとか交流とか、それに乗つかかって熊本県が積極的に熊本県を打ち出していくと。ただ、歌を聞くだけ、音楽を聞くだけ、芸術を発表するだけではなくて、熊本県という認知度を深める上にはチャンスじゃないかなと思うんですけど、今後の秘策についてちょっとお尋ねしたいと思います。

○成尾くまもとブランド推進課長 実は、3月の上旬に、これは香港になりますけれども、香港の地元のヤタという百貨店がございまして、こちらのほうといわゆる営業部長案件ということで業務提携をしたところでございます。

もともと、これは農林水産部のほうが、これまで熊本県産品を積極的に売り込むパートナーとして市場開拓しておりましたけれども、香港における「くまモン」の人気の高まりに伴いまして、ぜひ自分たちの店でも「くまモン」を積極的に商品として扱えないかというふうなお話がありました。

私どもといたしましては、熊本の県産品をいわゆるフェアではなくて、365日常時向こうで売っていただけるというふうな条件が整うのであるならば、「くまモン」関係についてもそれなりに前向きに検討していきましょうというふうなことで、知事と先方の社長との間で協議が整いまして、そういうふうな協定に結びついていくところでございます。

この際に、私ども単に熊本県の県産品を売り込むと、「くまモン」グッズを売り込むということだけではなくて、やはり熊本というものを一つの観光地としてもそうですし、そういう魅力あるものとしてトータルで売り込んでいけるように、ヤタの百貨店とは今後具体的な詰めをしていきたいと思っておりま

す。

そういう意味で、私どもも観光課、国際課それから交通政策課とも連携を図りながら、オール熊本を売っていく、その先達として「くまモン」を先に使うというふうなことを考えております。幸いにも、香港だけではなく、台湾それからシンガポール、もちろん韓国もですけれども、少しずつ「くまモン」の人気の高まりが見られております。

昨年も、今申し上げました各国から私どものところに、マスコミさんの報道、いわゆる取材も参っているところでございます。そういうふうなものを大いに活用いたしまして、いわゆる「くまモン」だけではなくて、熊本との関連性を深めていくというふうなことで、アジアに向けても積極的に関係各課と連携を図りながら取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

○荒木章博委員 熊本市から、また熊本のテレビ局から、熊本市の場合は韓国の蔚山市と友好都市ですけども、そういった中で地方のテレビ局と、また熊本市から、韓国との「くまモン」の出演についての要望あたりは来ていませんか。——来ていません。

○成尾くまもとブランド推進課長 そういう話についても、私どものところに情報は入っているところでございます。熊本県の場合に、韓国といいますと忠清南道というふうなところと姉妹提携もしておりますので、そういうところとも連携を図りながら、「くまモン」が韓国で大いに熊本にお客様等を呼び込むフックになるということであるならば、積極的に検討を進めてまいりたいと考えております。

○荒木章博委員 いや、熊本市からそういう要請は、テレビ局を通じて、テレビ局を含ん

で、そういう日韓の交流イベントの中で要請は来ていないかということをお尋ねしています。

○成尾くまもとブランド推進課長 申しわけございません。今、私どもの課には、まだ直接熊本市からはそういう要請はありません。

○荒木章博委員 わかりました。委員長、引き続き。積極的にそういうチャンスを生かす、例えば韓国で「くまモン」をテレビに載せる、熊本でもそれが放映できると、日韓交流の一環としても、また認知度にても非常にいいことだと思いますので、積極的に対応していただきたいと思います。

それじゃ、委員長、続けて。先ほど連続立体交差事業と九州新幹線の補助事業で、国が九州新幹線の場合4,700億、県が2,100億で、99.3%が——これはJR九州は一円も出さないんですかね、九州新幹線については。

○松永鉄道高架推進室長 JR九州の負担はございません。

○荒木章博委員 このたび0番線ですね、3ヘクタール、藤崎台球場の下は、2.5倍弱ぐらいの広さがあるところについてという、今地域住民が立ち上がって、熊本駅周辺推進協議会というのは長年取り組んできて、特に連立も新幹線を含めて、トンネルから熊本市内に入ったときは、池田校区、花園、それに城西、一新、呉服、春日、古町ですね、そこあたりまでが駅までの区間の人たちが立ち上がって、この前180名ぐらいの方たちが来て、JRの唐池社長のインタビューを聞きましたと、平屋にそこを持っていくのか、高層に持っていくのかというのを、本年度中に決めるということで、テレビ・新聞でも私たちは拝聴することができました。

そういった中で、熊本市の都市計画のほう

に問い合わせてみると、事実上JRさんのほうが、0番線の活用については高架事業でやるのか、平屋でやるのかという御相談に来られたと。そしたら、近々のうちに基本計画を決めてくださいと。そうしますと、準工業地域ですから、それを商業地域に申請をやらにやいけない。そしたらどれだけの規模、例えば聞くところによりますと、商業地域になると400倍ですから、建蔽率の問題がありますので約4倍。そうしますと、8階から10階建てのまあ鶴屋さんみたいなところができ上がっていくということで、私たちは辛島町の再開発とそしてJRの駅舎、また駅の隣接の駅舎に準ずる0番線のアミューズ施設、特に長崎、鹿児島、福岡——鹿児島はまだ増築しています、そして大分が来年の3月か4月に落成をすると。熊本が一番取り残された形で、これだけの熊本県は負担金を出しているわけです、2,100億。国と県で99.3%なんです。

そういう中で、熊本県としては何か、どういった考え方でこれには対応されているのかなと、そこをちょっとお尋ねしたいと思います。

○錦織企画振興部長 荒木委員御指摘の0番線の再開発につきましては、話の当初から、県といたしましては重大な関心を持って、民間の議論の推移を見てまいりました。昨年のうちに、JR九州の唐池社長が発言を具体的に進められている中で、熊本県の中でも商工会議所が中心となりまして、熊本駅0番線跡地利活用検討会議が立ち上げられまして、その場にも県・市ともにメンバーとして議論に加わったわけでございます。

その中でも、さまざまな具体的な提案等もございましたが、そういったあるべき熊本の陸の玄関口としての駅の大きな民間施設として、どのような姿であるべきかという御議論の結果を報告書の形にまとめまして、先般商

工会議所会頭のほうから唐池社長のほうにお渡しされたという今検討になっておりまして、その中で県としても具体的な議論に参加させてきていただいたということでございます。

現在では、その枠組みとはまた別に、JR熊本駅周辺の民間事業者の方々の議論の場が始まったり、あるいは周辺自治会の方々の積極的な勉強会が開催されるなど、さまざまな活動が始まっていますので、県といたしましても、引き続き皆様の御意見を伺いながら、この0番線の跡地のあり方について、真摯に検討してまいりたいと考えております。

○荒木章博委員 民間事業者というのは、今さっき言いました、長年私たち地域住民が取り組んでいる駅周辺推進協議会、万日山にトンネルを掘るとか、そしてまた合同庁舎を熊本駅にとか、そして森都心プラザホールもつくった大型の開発を行う、そういったことで活動しております。

そしたら、去年の11月ですかね、今お言葉がありました、何かそれに似たごたる熊本駅周辺地域活性化推進協議会というのができましたですね。企業ですよ、企業の団体。これは、0番線というのは、私たちが望む、うまくいくなら100億か200億の要するに建設物です。

こういった中で、業者の人たちが中心となって、その中に驚くことなれ、JRさんがそのトップの中に入っとらす。私はちょっと、業者間の集まり、朝日放送の社長も入っとられるし、放送界も入っとられるし、銀行関係も入っとられるから、それを全部否定するわけじゃないけど、何かつくり方がおかしいなど私は思うんですけどね。

そこで、県のほうにちょっとお尋ねをしたいと思うんですけど、過去にこれだけの熊本県が2,000億を超すやつの中で、JR九州さんは九州新幹線の負担がない。その中で、駅

舎建設について、企画の課長が一設計事務所に、安藤忠雄という設計事務所に単独で設計を頼んでいるわけです、はっきり言うて。熊本県の今の置かれている立場というのは、新幹線の31%を預かる県が、一企業だけにそれを依頼するということは、大変なこれは問題なんですよ、はっきり言うて。

だから、企画課の課長さんが当時したわけですけど、企画課の課長さんはそういう単独を今後される可能性があるのかということを、ちょっとお尋ねしたいと思うんです。

○吉田地域振興課長 熊本駅舎のデザインにつきましては、平成18年10月に開催されました県・熊本市・JR九州・経済界等で構成されますいわゆるトップ会議において、著名な建築家を活用しまして、熊本らしさの象徴となるランドマークにしたいという御意見が出たところでございます。これを踏まえて、地元として望ましいデザインイメージを取りまとめて、JR九州に提案するためのデザインスケッチを作成したというところでございます。

以上でございます。

○荒木章博委員 そこがちょっと私はおかしいと思うんです。著名な設計士というのはたくさんいるんです、全国に。それを、一企業だけを、一人間だけに熊本県が絵を描かせることによって、当時JRの幹部の人が、何で熊本県はJR—JRの発注はどこがするんですか、JR駅舎の発注は。0番線はどこですか。

○吉田地域振興課長 JR・0番線については、これはもちろんJR九州の土地でございますので、そこは整備主体はJR九州というふうに認識しております。

○荒木章博委員 0番線は。

○吉田地域振興課長 0番線です。

○荒木章博委員 そうすると、駅舎は。

○吉田地域振興課長 駅舎ももちろんそうです。

○荒木章博委員 だから、私が言つとるのは、著名な建築屋にするなら、設計コンペでもしてやりやいいじゃないですか、3社ぐらい寄せていいやつを選んだらいいじゃないですか。なぜ1社に頼むんですか。

○吉田地域振興課長 デザインスケッチを依頼する建築家につきましては、当時ランドマークにふさわしい駅舎デザインということでございましたので、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞されているとか、あと世界的に権威のある4つの賞をすべて受賞されているというところを踏まえて、あとはまた県内での設計実績もあるということを踏まえて選定をさせていただいたところでございます。

○荒木章博委員 わかりました。もうちょっと、そこが——過去のことはいいですよ。だから過去のことはいいです。しかし、前を向いて、今後県はどういったかかわり合いをこれにしていくのかということです。また、今後も著名な建築家にまた基本設計を頼むんですか。絵を描かせるんですか。

○吉田地域振興課長 0番線跡地活用につきましては、先ほど部長の錦織のほうがお答えしましたとおり、基本的にはJRが整備主体ということでございますので、県といたしましては熊本市や地元経済界とも連携をして、県民はもとより県外からのお客様にとっても魅力的で利便性の高いものになるよう、JR

にお願いをするという立場でございます。

○荒木章博委員 委員長。いや、私は何遍もこういうことを言っているんじゃないんだけど、この駅周辺地域活性化推進協議会の中には、代表はJRの支社長ですよ、はっきり言うて。40何人おるけど、その中に熊本県は1人だけ入っておるわけなんです。そこで、その方の家をしているわけでしょう、過去に。だから、そういう疑惑を抱かぬような今後取り組みをやってほしいということなんです。

そして、この駅周辺地域活性化推進協議会、41社の企業に、その方の名前が連ねてあるじゃないですか。JR九州さんは、熊本県民の中での取り組みをしたんですよ。だから、100億、200億という今度工事が出るでしょう。また安藤さんなんですか。

○錦織企画振興部長 先ほど吉田課長のほうから御説明申し上げましたが、0番線の開発主体はJR九州様でございます。そして、その施工の主体となるのも当然JR九州さんでございまして、その方々がどういうデザインをされるのか、どういう方々に設計をお願いするのかというのは、これはすべて事業主の判断によるものでございます。

ですから、一義的にそれを決めるのはJR九州さんでございますけれども、我々熊本県の関係者というのは、経済界、それから県も市も、それぞれに陸の玄関口としてふさわしい建物にしていただく必要がある。それから熊本の言ってみれば上通り、下通りを中心とした中核施設、それからその次にある花畠・桜町地域というのとつながっていく、一つの大きな人の流れをどうやって回遊性を高めていくか、そういう観点からもあるべき姿というのはやはりあるんだと思っております。

ですから、そういった県の関係者、官民あわせまして、JRさんとそのあり方についてはもちろん真摯に協議を行っていきたいと思

っておりますが、繰り返しになりますけども、誰に発注するかということにつきましては、これはJR九州様の御判断であると思っております。

○荒木章博委員 もちろん、私もそれは認識しております。ただ、それだけの回遊の前に、事前に絵を描かせたり、優秀だから描かせたて、アスカー賞かなんとか、オスカー賞か知らぬけれども、いろんなそういう賞をもらった人は全国に、熊本県にも正直言ってそれだけの努力できる人たちもいるわけです、地元企業にも。

そういうことで、やっぱりそういう地元とベンチャーとか、いろんなことを考えていかなければ、しなければですね。だから、お二人は国から来ているわけだから、しばらくすると帰ってしまいなはるかもしれません、この100億、200億の工事についても、JRの駅舎の建築費も、誰が考えてもおかしい。

また、私は警察と教育の担当ですから、オリンピック誘致の問題についても今度は最後ですたい、委員会が。委員長がおられますけれども、私は徹底的にこの問題は追及していくと思うておりますけど。

やっぱりこういう疑惑、そしてJR九州が代表になって、そして一個人の企業の後援会に入つとる、政治献金に入っている団体、人間が何人入っていますか、この中に。41社の中に。代表の中に3人なり4人入っていますよ。

こんなことをつくって、私たち地元には無視されて、地元には相談なく、熊本駅周辺地域活性化推進協議会役員、JR九州支社長、そして構内タクシー、そして西部ガス、そして、ヒライホールディングス社長、この人が代表で、理事が16名、41名が会員、会費が年間3万円ですか、やって悪いと僕は言っているんじゃないんですよ。もう少し、熊本県の今置かれている立場というのを、正式にきち

んとした角度でやらないと——今言っていることはまさに正しいことなんですよ。正しいことをやってくれれば、先駆けてそんなことをするから変な誤解があるとです。

これやたらすっとですね、国の予算委員会に出ますよ、こういう問題は。オリンピックも含めて、いろんな話を聞きたいという情報が来ているわけですから。熊本県は今の人たちに言っているんじゃない、今後そういうのが加入しないように、されないようなきちんとした対応をやっていただきたい。それだけを要望して、きょうはこれで終わります。

以上です。

○小早川宗弘委員長 ほかに質疑ありませんか。

○平野みどり委員 小林局長に。国際線振興ですが、実は年末にちょっとタイにプライベートで行ってきたんですけど、そのときはまだ暴動というか全然なくて、政府機関の前にちょっと占拠をしているかなという程度だったんです。それから次第に結構深刻になってきて、この前は、遊びに来ていたおばあちゃんと子供さんが爆破物で命を落としたということもあって、それから双方の、デモをしている団体の側も政府側も、少しずつ歩み寄りを見せているのかなということらしいんです。

実は、私の弟が今バンコクに駐在をしていて、きのうもちょっと東京で会ってきたんですけども、暴動がひどかったときはお客様、航空機もがらがらだったけれども、今は席がとれないぐらい回復してきているということなんです。

ですから、熊本もタイとの国際チャーター便就航に向けてこれまで取り組んできて、ちょっと暴動で一旦ストップがかかってきているのかなと思うんですけども、最新情報なんかを入れつつ、ぜひまた実現できるように取

り組んでいただきたいんですけど、そこら辺どうでしょうか、状況は。

○小林理事（交通政策・情報局長） 昨年来、タイ国際航空のほうから、熊本に対して非常に関心があると、チャーター便を26年度中に飛ばしたいというお話をありました。その後、民間の旅行会社と組んで、具体的なチャーター便の計画がなされていたわけですが、昨今の状況を踏まえて、少し延期というお話を伺っております。

大変残念であるんですけども、私ども、今委員おっしゃられましたとおり、状況をよく見ながら、旅行会社にも情報提供しつつ、向こうの航空会社とも引き続き、熊本側としては関心があるということを示しながら、いくつかどの段階かでこれを実現したいというふうに考えておるところであります。

○小早川宗弘委員長 よろしいですか。

○平野みどり委員 はい。

○高木健次副委員長 4ページなんですけど、ちょうど真ん中の九州縦貫自動車道関係で、スマートインターチェンジの整備がここに載っておりますけれども、宇城が3月、今月の末には開通で大変喜ばしいというふうに思いますが、北熊本、城南、人吉、矢継ぎ早に工事が進んでいるような感じを受けて、感じからすると、インターとインターの間に城南も人吉もできるということになれば、もったいないなという感じもしますけれども、これは事業計画で上げてありますけれども……。

北熊本のスマートインターチェンジが、計画では27年度開通ということで進んでおりました。聞くところによりますと、非常に難航をしているというか、事業が進んでいないという状況で、果たして27年度供用開始ができるのかと

いう危惧をしておりますが、このことは22年に、小杉委員が議長のときに、勉強会をやつたけれどもなかなか進まないという状況で、小杉議長にお願いをして、熊本市、合志市、担当課を集めて、早くやろうという推進をしていただきまして、それから協議会、そして国の連結の許可がおりたと。

そこまではよかったですけれども、ここに書いてあるとおり、23年度には事業化になって、24年度に事業説明会、用地説明会も25年度にはやっているということですが、聞くところによりますと、用地交渉どころか、まだ全然その辺で手がつかずということですけれども、手島道路整備課長、進捗状況とこの辺の経過というものはどうなっていますか。

これは熊本市が事業主体ですから、合志市も一応関係して、応分の負担金はいつでもやるというふうな状況で進んでおりますが、一向にそれ以降の姿が見えてきておりません。その辺いかがですか。

○手島道路整備課長 今、高木委員がおっしゃったように、用地交渉に入れていない、用地の単価の説明会をしたというふうに聞いております。その場所でなかなか合意が得られなかったということでお聞きしておるところです。

今後熊本市と——ネクスコさんも同じなんですけども、熊本市とネクスコさんは、土地所有者に対して単価の根拠などを丁寧な説明を行って、理解を得て早期の用地取得に努めたいというように考えていると、お聞きしておるところです。

当然ながら、用地の取得ができないと当然工事にも入られません。あと用地取得が終わると、その後文化財の調査とかもございますけども、そういうのが終わっていかないとできないということで、現状ではやはり27年度はかなり厳しいのではないかと、私どもも今考えておるところでございます。

ちなみに、県としても、今委員からのお話がありましたように、やはり周辺地域の利便性の向上の意味、あるいは地域産業のさらなる活性化という観点から非常に大事なものだと思っておるところで、委員からお話がありました協議会というのは、正式名称には地区協議会というのがあります、これが実施計画の策定とか、あるいはさっき言われた連結許可申請に向けてつくったものなんですけど、これ自体通常は順調に進んでいるときは何もないんですけど、いろんな動きがあるときは、ここでまた必要があれば事業計画の変更とかいうのを考えいかにやいかぬもんでも、こういう場が一つございます。

こういう場で、県としても状況をまず把握した上で、どうやって進めていくのかというようなことを含めて、事業進捗に向けて地区協議会を早く開いてくれということを、働きかけていきたいと思っております。

地区協議会というのは、熊本市と合志市、我々も入つとるんですが、あとネクスコとか国交省とか、有識者とか入っておりますので、仮にこれがなかなか開けないということであれば、せめて熊本市と県と合志市で状況の把握をするような、あるいは今後進めていくために何かお手伝いすることはないかというのも含めて考えていただきたいと思いますので、こういう場を設置してもらうように、合志市と一緒に熊本市に働きかけたいと思っておるところでございます。

○高木健次副委員長 内容的には用地の単価の違い、聞けば、熊本県がちょっと先を買収している金額と、この用地価格が非常に差があるということで、地権者もなかなかそのくらいの価格じゃ売らないという人の意向が非常に強いということですね。

ですから、この辺は熊本市が事業主体ですから、協議会までは県の主導みたいなのがあってスムーズにいったんですけど、熊本駅の

駅前広場の開発あたりにしても、県が一旦手を引けば、何かあとは熊本市が事業主になつてもなかなか進まない、うまく県が思つてゐるようなデザインも引けないというような問題が多々あるんですね。

ですから、これも今課長が言われるように、協議会は早く地権者、合志市、熊本市を主体として立ち上げて問題点を解決していくかぬと、予算も凍結されるんじゃないのかなという心配もあるわけです。

結局、設計は終わつておるわけでしょう。だから、ネクスコに私も陳情にいったときにも、この問題毎回、毎回陳情してきます。ネクスコに早く出口まで用地買収やってくれと言つても、いや、これはある程度地元の問題ですから、地元が出口からの用地交渉をある程度進めていかないと、ネクスコが進めてそれで行き詰まつてもいかないということで、非常に問題点もあるんです。

要は、もう一つは、文化財の発掘調査、これも今進みよつですか。

○手島道路整備課長 基本的に買つてないんですけど、了解が得られたところについては試験的な発掘ですね、試掘というのをやっていまして、これでかなり本格的な調査、本調査というんですけども、それが必要な状況だということは把握されているようです。ですから、正式の調査はまだ始まつてないというふうに認識していただければと思います。

○高木健次副委員長 今度調査区域も8,500平米が4万平米か、ちょっと拡大をしたというふうな話を聞いたんですけども、これはいかがですか。事実ですか。

○手島道路整備課長 私どもも詳細には知らなかつたんです。確認させてもらった結果、当時の連結許可申請についています実施計画書では、委員がおつしやつた8,500平米程度

が、本調査する範囲ということで入つておつたということです。ただ、現在の考え方としては、今回用地に係るすべての範囲約4万平米、これについて本格的な調査が必要だというふうに聞き及んでいるところでござります。

○高木健次副委員長 この辺もやっぱりおかしいと思うんです。最初から計画するなら、その辺の範囲というのはある程度決めていかぬと、今ごろになってまた拡大・拡張しますよじや、非常に問題が大きいんじゃないかなと。ただ、しかし、この地区協議会、これば課長、県の指導でも早くいいじゃないですか、どうなつてゐるんだということで、熊本市が事業主体ですけれども、熊本市を呼んで、その辺の協議を、地権者を含めての用地交渉あたりも進めていくように、これはできるだけ早く、地区協議会は県のほうで主導してやってください。これはもう一言でいい。

○手島道路整備課長 委員がおつしやるようになつても危機感を持っておりますので、可能な限り早く開くように働きかけてまいります。よろしくお願ひいたします。

○小杉直委員 関連してよかですか。今、高木副委員長の意見の件ですたいね、土木部長、思い起こすと、22年ごろ議長時代にそういう意見があつて、合志市、熊本市それから県、集まつていただいて議論をしたことがあつですよ。そのころ小川インターも見にいき、それから城南インターも見にいき、北熊本インターも見にいつたっです。

ところが、3つともまだ手つかずには、印象としては、こら北熊本インターが早いんじゃないかなという印象ぐらい持つたのですね。ちょうど熊本市が政令指定都市に移行する時期になつたもんですけん、少し熊本県のほうが遠慮された向きもその後あつたよ

うな気もしないではないです。

今、副委員長がおっしゃったように随分おくれておりますから、遠慮なく熊本市のほうのしりをたたいていただいて、県ができるだけリードしていただいて、実現に向けて推進していただくごて、手島課長あたりと話し合いながら、よろしくお願ひします。

○船原土木部長 北熊本サービスエリアにつきましては、スマートインターチェンジ、これは物流とか、観光とかの面で、非常に重要な施設であろうというふうに考えておりますので、今現在用地の関係でとまっているというふうな状況を聞いておりますので、その事業計画なりを策定をしたときの地区協議会、これを開催すべきときであろうというふうに私も考えておりますので、熊本市のほうにはしっかりとそういう開催を申し入れをするというふうにしたいと思っております。

以上でございます。

○小杉直委員 お願いします。

○荒木章博委員 それにちょっと、少し…。その件とは違うんですけど、今副委員長のほうからも話がありました合志市が、荒木市長のもとかなり人口が大きくなっている。そういう中で、あすこに通じる交通機関というのは、もちろん車は別にして、電車では藤崎宮前の電鉄ですかね、だから電鉄と上熊本とか、そういうのとつなげられないもんだろうかという、電鉄の延長あたりも含めてですね。そうしますと、九州新幹線やら在来線やら、その結びつきができるんじやないかということで、この前話し合いのときに要望も出たんですけど、そういうのはどう思っていますか。

○船原土木部長 熊本電鉄の都心結節ということだろうと思います、今荒木委員の。上熊

本駅のほうには既につながっておりますが、今は藤崎宮でとまっているということで、これが延伸されて例えば通町まで行けば利便性相当上がるんで、利用者もふえるんじゃないかという話は昔からあっておりまして、いろんな場で協議をされたりしております。

パーソントリップ調査をやった折にも、そういう提言なりはさせていただいておりますが、いかんせん莫大な事業費と、あと電車を通していきますので、既存の住宅、ビル等をどうやるんだというような非常に課題が大きいというところで、そういう理想的な案はありますけど、先に動いていないというのが現状かと思っております。

○荒木章博委員 確かに、これはかなり前から論議をされたことですけれども、降って湧いてまた消えたりやっておるんですけども、これには工事費というのが負担がかかるということで今部長が言わされましたんで、こういったのも消さないようにして、何か計画の中で、例えば中心市街地に持ってくるとか、例えば新幹線に、在来線に接続できるようを持っていくとか、そんなこともちょっと考えていただければと思います。JRに出す2,500億ぐらいはありませんから、いろいろと今後続けていただきたいと思います。

以上です。

○小早川宗弘委員長 ほかにありませんか。

○鎌田聰委員 37ページのパークアンドライドなんですけれども、今後また新たにJRの豊肥本線駅について検討を進めるということでありますけれども、今やられているところで駅の稼働率が低いところがありますね、15%とか43%、こういったところについては問題点を解消するということでありますけれども、どういった問題点があるのかということと、あとこれに対して、パークアンドライ

ドに協力していただいている事業者が駐車場かあれですけど、何か県のほうから幾らかこれはお支払いしているんですか。

○平尾都市計画課長 まず、稼働率が低いという観点からいいますと、例えばバス停が遠かったりとか料金が高い。この料金が高いというのは大体全体的な傾向で、利用者の方々が感じられている。始発便がないというようなことが、大きな、利用率の低いところの共通課題かなというふうに認識しております。

事業者さん自身も、パークアンドライドをなるべく推進したい、していきたいという観点で、パークアンドライドにつきましては、大体駐車料金というのは月決めが原則でございます。ただ、事業者さんによりましては、稼働率の低いところについては、例えば日で貸す、1日当たり100円とか、そういうふうな料金設定をまずして利用拡大につなげられないかとか、あと1台駐車スペースを家族で御利用できないかというような、いろんな御提案もいただいているところでございます。

そういうふうな中で、実は表にはあらわしておりますが、前回の委員会で御説明申し上げました11月30日では369台、今回の御報告で377台ということで、幾ばくかの効果は上がってきております。ただ、全体的に多いところと低いところが二極化しているという現実はございます。

それと、県からの補助金という形の御質問かと思いますが、県からの補助金はいたしておりません。

以上です。

○鎌田聰委員 なかなかバス停が遠ければ、おりてまた不自由なところもあると思いますし、そういったところも改善が必要じゃないかなと思います。料金の問題点もそういうことだろうと思いますが、先ほどまたちょっと聞きましたJR豊肥本線沿線で検討を進める

ということでありましたように、具体的にどのあたりでどうしようということで、いつごろからですか、その辺をお尋ねします。

○平尾都市計画課長 実は、本年度調査をいたしました。熊本周辺からなるべく車による通勤・通学を減していこうというふうな方策がないかということで、実は熊本市以外の駅から500メーター、バス停から250メーター区間にある月決め駐車場と商業施設を調査しております。

その中で、総トータルでいいますと、月決め駐車場が250カ所、それと商業施設が14カ所全部でノミネートいたしましたが、この大半が菊陽、合志、大津というところに集中しているというのがわかりました。具体的にこの算出法の中で、有料駐車場の250のうち100カ所近くがそこに集中しております。それと、商業施設については14施設のうち7カ所が、今申し上げたところに集中しております。

こういうところにつきまして、パークアンドライドに対する働きかけ、駐車場の方々に対するお願い、それと商業施設につきましては既に表に載せておりますが、ゆめタウンとかイオンモール等につきましては、その商品券を買っていただいて駐車場をただにするというようなことで、お互いの利潤を追求できるんじゃないかなというような御提案も、今後やっていきたいというふうに考えております。

なおかつ、具体的に申しますと、光の森につきましては、台数を何とか多くしてくれないかと、今100%の状態ですから。昨年10月に実は立体駐車場ができております。それを機にして、幾らかの増設がお願いできないかというようなことをお願いしたんですが、実は店自体の増床計画をお考えみたいです。ですから、その増床計画の後にまた改めて相談させてくださいというようなことを言われて

おります。

三里木等につきましては既存の商業施設がございます。そういうところに働きかけをやってまいりたいと思っております。

原水につきましては、原水は駐車場、商業施設はないんですが、公共空地がありそうなあんばいなもんで、この辺の公共空地の利活用という観点で攻めていきたい。

あと、大津につきましては、既に駐車場、商業施設が手いっぱいの状態で、なかなか割り込むすき間がございません。それで、今申しました3,000平米の店のクラスをちょっと下げて、1,000平米から2,000平米クラスの商業施設についてそういう可能性がないか、来年度調査してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○鎌田聰委員 わかりました。豊肥本線沿いが非常に少なかったもんですから、そういうふうにいつかまたふえてくればいいと思います。特に、光の森も100%ですからさらなる上昇が見込まれれば、その辺の利用がまたふえてくるんじゃないかなというふうに思いますので、きちんとした取り組みをよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○小早川宗弘委員長 それでは、ほかに質疑はありませんか。

○荒木章博委員 委員長、忘れておりました。九州新幹線の高架の、在来線の高架に伴う落橋ですけれども、田崎の落橋はいつごろ予定をされていますか。

○松永鉄道高架推進室長 委員の御質問は、今鉄道を越えている仮橋の……

○荒木章博委員 そうです。だから今渡って

いますでしょう、ぐるっと回って。あれを完全に工事が始まるから落とさなきやいけません。落とすというか、仮設を外さなきやいけませんでしょう。それに伴って横断歩道というか、田崎の横断歩道がありますね、何というかな陸橋、歩道橋の落橋も当然必要になってくるわけでしょう。

○松永鉄道高架推進室長 26年度末に、駅部につきましては上り線の高架橋が完成いたします。その後に、熊本市のほうで仮設の道路、今上を越えています陸橋を落とすための仮設の道路を2車線で整備をされてきて、その後に今度下り線が整備される位置に今現在あります高架橋を、県のほうで撤去をいたします。そして、29年度末に両方の——落とすのは27年度に落とします。

○荒木章博委員 そこあたりをきちんと私説明していただきたいですね、どういうふうな状況になっていくかということですね。最後の段階に入ってきたもんですから、ぜひお願いしたいと思います。

○松永鉄道高架推進室長 きちんとその辺、説明をしていきたいと思います。

○荒木章博委員 委員長、もう一つちょっと。ブランド推進課に先ほど質問をしたんですけど、観光課のほうにさっきの問題をお尋ねしたいと思います。韓国に向けての「くまモン」の進出ということを、ブランド推進課長がまだ認識していないと伺ったんですけど、観光課のほうにはその話は来ておりますか。

○渡辺観光課長 話としては、熊本市からは直接お話し合いはやっておりませんけども、申し出があるということは承知しております。

○荒木章博委員 以上です。

○小早川宗弘委員長 それでは、これで質疑を終了したいと思います。

次に、議題(2)閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、引き続き審査する必要があると認められますので、本委員会を次期定例会まで継続する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「はい」「了解」と呼ぶ者あり）

○小早川宗弘委員長 異議なしと認めます。そのようにいたします。

その他として何かありませんか。

○小杉直委員 前々回の委員会と思つたのですが、荒木委員の御近所でありますけれども、ニュースカイホテルの前の市電の中央分離帯への大型中央分離帯、箱型中央分離帯、あがれが危険性のあるということでお願いしたら、早速土木部と県警と共同で熊本市のほうに申し入れしていただいたて、大きい反射板を設置していただいたて非常に効果があつたと思いますので、縦割り行政を乗り越えてこうやってしていただいたとお礼を申し上げておきます。ありがとうございました。

○荒木章博委員 ほんなら一つ。私もお礼を申し上げとかにやいかぬ。（笑声）

駅前の、東西に駅舎に向かう道路について、ちょっと透明な分があるということで、県警本部、土木のほうにお願いしましたところ、早速部長さんがみずから現地を見ていただいたそうで、早々に取り組んでいただくということ。

それとまたあわせて、JRに隣接する小学校の通学路における信号機の待ち時間の対応についてもお願いしましたところ、早速に取

り上げていただきまして、こういうきちんとした取り組みについて、地域住民から、また学校、PTAからも、くれぐれもお礼を申し上げてくれということでございますので、この場をかりまして交通部長にはお礼申し上げます。

以上です。

○小杉直委員 お礼の言葉はいいですな。（笑声）

○小早川宗弘委員長 ほかに何かありませんか。なければ、本日の議題はこれで終了いたしました。

ここで、本年度最後の委員会ということでありますので、一言御挨拶を申し上げたいと思います。

高木副委員長を始め各委員の皆さん方には、本当にこの1年間熱心な審議をしていただきましたことに、心から厚く御礼を申し上げたいと思います。また、錦織部長、船原部長、また執行部の皆さん方には、本当に親切な説明と対応をしていただきましたことも、心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

きょうで委員会も今年度最後というふうなことで、正直なところ、あつという間の委員会だったなというふうに思いますし、委員の皆さん方もそれぞれ個性があられて、円滑な委員会運営できたのかなというふうに思っておりますけれども、（笑声）しかしながら、全員本会の委員会とあと管外視察で、それぞれ充実した有意義な委員会になったんではないかなというふうに思っております。

現在、九州新幹線の全線開業からもまる3年というふうなことであります、まだまだ熊本駅の周辺整備、あるいは連続立体交差事業も今後時間がかかるというふうなこと、それから熊本都市圏交通、あるいは阿蘇くまもと空港の利便性向上、拠点性向上について

も、もっともっと深く議論していかなければいけないと、そういう状況でありますので、ぜひ執行部の皆さん方には、今回の委員会で受けた意見とか、あるいは質の成果というものを再度復習というか、再度検証をしていただきて、今後の施策につなげていただきたい、活用していただきたいというふうに思っております。

それから、3月をもって退職をされる船原部長、増田課長のお二人には、本当にお疲れさまでございました。長い間県の中で頑張っていただきましたことに、心から敬意と感謝を申し上げたいというふうに思います。これからも健康には十分に気をつけて、どこか就職されると思いますけれども、新天地、誰でも、新しい生活の中でも、県政発展のためにお力添えをいただければというふうに思います。

最後になりますけれども、委員の皆さん方、執行部の皆さん方の今後ますますの御健勝と御活躍をお祈りして、前委員長としての御礼の御挨拶とさせていただきます。

皆さん、本当に1年間ありがとうございました。（拍手）

それでは、引き続いて、副委員長から御挨拶をいただきたいと思います。

○高木健次副委員長 私のほうも、あつという間の1年間でございました。執行部の皆さん、そして委員の皆さん方には大変御世話になりました。果たして委員長を補佐することができたかというと、はなはだ疑問なところもありますけれども、この1年間、本委員会で協議をしてきたこと、視察含めて大変勉強になりました。そしてまた、本県のこういう新幹線あるいは高速交通体系に関する課題・問題等も浮き彫りになったのかなというふうに思っております。

今後とも執行部の皆さん方、いろんな面から、本県の委員会関係についてのいろいろな

御支援・御協議をよろしくお願いしておきたいというふうに思っております。

私のほうも委員長を支えてくることができなかったというふうに思っておりますけれども、まだ次の委員会でも皆さん方にお世話になるかというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げ、簡単ですが、お礼の言葉と感謝にかえさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

（拍手）

○小早川宗弘委員長 それでは、これをもちまして、本日の委員会を閉会します。

午前11時40分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会
委員長